

令和5年度 自己評価表

鳥取県立倉吉養護学校

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>○未来に向かい 自分らしく輝き 豊かに生きる子どもを育成する。</p>	<p>今年度の 重点目標</p>	<p>○自己肯定感を高め、主体的に取り組む児童生徒の育成 ○質の高い職員集団の実現 ○安全で安心な学校の実現 ○「チームくらう」の推進</p>
---------------------------	--	----------------------	---

評価項目	部	評価の具体項目	年 度 当 初		評 価 結 果 ( ) 月		
			現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評 価
自己肯定感を高め、主体的に取り組む児童生徒の育成	A 部門	○子どもたちが日々の学習に期待感をもって取り組み、一人一人の方法で表現する力を育む授業づくり	○ルーティーンになっている流れて見通しを持って生活することができている。 ○学習担当の教職員に対しては、自分の思いを個々の方法で伝えることができているが、「いつでも、どこでも、誰とでも」コミュニケーションをとれるとは限らず、自身の表現力を高めていく必要がある。	○様々な学習活動を通して、児童生徒が一人一人の方法でいろいろな人に気持ちを伝えたり、表現したり、関わろうとしたりする姿が見られる。 ※教員の8割以上が「できた」と回答	○表現、表出について、懇談等を通して保護者から情報収集を行ったり、支援者同士で情報共有を行ったりする。 ○表現力についての研修会を開催する。 ○児童生徒が主体的に取り組むことができるような単元、題材、教材等を支援者で検討しあい、授業作りを行う。 ○学習グループで使っている教材について情報共有する。		
	B 小学部	○主体的に活動したり表現したりする姿へ繋げる指導・支援の工夫	○児童の達成感や、主体的に活動する意欲を育むため、教育活動全般を通して、様々なアセスメントからの児童の実態把握を行い、発達段階に応じた表出や表現できる学びの場を作っていく必要がある。	○児童が学習や生活の中で、自分で伝えたいことや表現したいことを、自分なりの方法で表出したり表現したりする姿が見られる。 ※教員の8割以上が「できた」と回答 ※学習後の振り返り場面の姿を捉えて、児童の変容を評価	○担任だけではなく、教員間でも児童の実態を共有し、学習内容や指導・支援方法を検討して、評価・改善を行っている。 ○児童の表出力や表現力を広げるために、有効な支援ツールや教材・教具の情報共有を図る。 ○児童の学習の様子や学習の広がりについて、保護者や関係機関と共有し、連携を取っていくことを継続する。		
	B 中学部	○表現力の育成を目指した授業の充実	○昨年度の取り組みから、自分なりの方法で気持ちや思いを伝えようとする姿が増えつつある。しかし、伝え方や言葉遣い等に課題が見られ、トラブルにつながる場合がある。また新年度になり、人間関係や学習環境が変化したことにより、自分から気持ちが伝えにくい姿も見られる。	○相手を意識した伝え方を身につけ、自分の気持ちや思いを伝えることができる。 ※教職員アンケートで8割以上が「できた」と回答 ※生徒アンケートや学習の記録から評価	○相手に伝わったという経験を積み重ねられるよう、生徒と指導者や生徒同士がやりとりをする機会を意図的に設定する。 ○自分や相手の良さに気づき、認め合える環境づくりを目指し、学習過程や成果の掲示、動画をを用いた振り返り、生徒同士の相互評価などを行う。 ○学習グループや学部内で、生徒の様子や学習の工夫、指導支援等々について情報共有を行う。		
B 高等部	○一人一台端末(ICT機器)を利用した学びを通して、周りの人とのやりとりができる生徒の育成	昨年度、学部研究で、指導者と生徒、生徒同士のやりとりのある授業づくりに取り組んだ結果、生徒が意思を伝える機会、やりとりする機会が増えた。しかし、単一、重複とも生徒同士のやりとりに関しては、まだまだ改善する必要があるという課題が残った。今年度はそれに加え、高等部一人一台端末の導入に伴う、ICT機器を利用した新しい学びを推進する必要がある。そこで、今年度は、授業や生活の中でICT機器を利用しながら、指導者や生徒同士でのやりとりを増やす取り組みを通して、自己肯定感を高めるようにしたいと考えている。	① 生徒が、授業や生活の中でICT機器を利用した学びをすることができる。 ② 生徒が授業や生活の中でICT機器を利用しながら、指導者と、もしくは生徒同士でのやりとりをすることができる。 ※以上、指導者に中間・期末アンケートを行い、2つとも80%以上でA評価、1つ以上が80%でB評価、①②とも80%以下の場合C評価としたいと思います。 ③ アンケート回答が可能な生徒には、ICT機器を利用して、学ぶことが楽しくなったかどうか聞いてみたいと思っています。	○まずは、指導者がICT機器を利用した学びについて理解する必要があるため、学部で研修会を行う。 ○授業や生活の中でICT機器を利用した学びの実践例を共有しながら、取り組みを進める。 ○昨年度の学部研究での、やりとりのある授業づくりを基盤にししながら、ICT機器を活用しながら、やりと리를増やしていくが授業づくり研究を進めていく。			

		年 度 当 初			評 価 結 果 ( ) 月			
評価項目	部	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	次年度への改善方策
質の高い教職員集団の実現	研究部	○児童生徒の表現力を育成するための指導者の授業力向上	○令和4年度は2回の研究の日を通して全学部の複数の授業公開を実施することができた。他学部の普段の実践を知り、学び合うことのできる良い機会となった。本校オリジナルの授業研究の方式を来年度も継続しながら、令和5年度からは表現力の向上をテーマに新しい研究に取り組んでいく。	○学部ごとや全体の授業を公開することを通して、表現力向上をめざした授業の工夫を知ることができる。 ※教職員アンケートで8割以上が「できた」と回答	○授業者が実態(アセスメントの結果等)・目標・授業の工夫がわかるシートを準備する。 ○授業者と参観者が授業について建設的に話し合うことができる「授業公開」となるような場を設定する。			
	教務部	○授業に活きる年間指導計画の整備	○年間指導計画の見直しを毎年行う中で、各活動のつながりを意識した立案がされている半面で、学級経営簿の簡素化で各教科等の活動計画の横のつながりの把握が難しくなった実態がある。 ○合わせた指導における年間指導計画が揃っていない実態があり、中身の検証等と合わせて整備が必要である。	○各教科等の年間指導計画の書式について整備を完了させることができる。(すべての計画を作成) ○各教科等の年間指導計画をまとめられる書式を作成し、各教科等のそれぞれの年間指導計画を横断的に確認できるものを作成する。	○学部の系統性を確認しつつ、すべての教科、合わせた指導等の年間指導計画の作成を進める。 ○各教科等の年間指導計画を作成作業で全体をまとめられるように書式等の工夫を行う。			
	全体	○時間外業務の原因把握と業務カイゼンの推進	○個々の業務を見直し、継続的に業務量の平準化を図る必要がある。 ○前年度比で月45時間を超えて時間外勤務をする者が増えている実態がある。	○日々勤務簿の自己管理を徹底するとともに、研修等で自ら業務カイゼンに参画し、具体的な改善策に向けて取り組む。 ※教職員アンケートで8割以上が目標達成のための方策を「できた」と回答	○会議をしない日やノー残業デーの設定し、早期退勤への意識を高めるとともに計画的に勤務をする環境を整え。勤務簿の自己管理の徹底を図る。 ○業務カイゼンに関する研修会を実施し、一人ひとりが業務カイゼンに向けての意欲を高めるとともに自ら考えた改善策を取り組みにいかす。			
	事務部	○事務の効率化と「チーム事務室」の推進	○新たに担当する業務の引継ぎや業務進捗管理に一部十分でなかったところがあった。	○各自の業務が誰が見てもわかりやすく整理されている。	○各自が担当業務の効率化と見える化を行う。			
安全で安心な学校の実現	健康教育部	○状況に応じた感染症対策の実施 ○保健指導の充実に向けた環境整備	○本校はハイリスク施設としての対応が必要であり、新型コロナウイルス感染症の第5類移行後も、その時々状況に応じた感染症対策が求められる。 ○保健指導における教材づくりが進んでいる半面、データの保存先が曖昧で活用がしづらかったり、指導要領等から必要な情報を探すのに時間を要したりする。	○校内における感染症対策のマニュアルを作成し、対応を実施する。 ○保健指導用のデータ教材や授業づくりに必要な情報が活用・共有しやすいように、環境整備を行う。	○学校保健安全法施行規則等の法的根拠に基づきマニュアルを作成するとともに、教職員に周知し、対応を進める。 ○校内のデータの保存先を明確にするとともに、授業づくりに必要な文書や情報リンクを添付した一覧シートを作成し、活用の呼びかけを行う。			
	安全・環境部	○安全・安心への意識と体制作り	○各種訓練、研修会、ヒヤリハット等を通して、教職員の安全で安心な環境づくりに対する意識を高めるよう努めている。 ○地震、火事、不審者などの避難訓練の方法や緊急時に使用する機器の扱い等に課題が上がっている。	○児童生徒が安全・安心な環境で学習できるよう避難訓練や安全点検、ヒヤリハットでの情報共有、課題への対応を適切に行っている。	○安全点検を適切に行い、事務部への報告を行う。 ○安全・安心への意識を高める体制作りを行うことができるように、避難訓練の方法などを検討・見直しをしながら計画、実施する。			
	安全・環境部	○より安全・安心な教育環境	○定期的な掃除道具点検、職員作業により、校舎内外の校内外の環境が整った。 ○TEAS報告やエコ点検を定期的に行っているが、エコについての取り組みがクラスによって差がある。特に、水道、紙の使用量が増えている。点検内容を見直したので、結果を見て呼びかけを行っている。	○安全・安心な教育環境づくりを行うとともに、エコに対する意識が高まる。 ※職員作業の実施(年2回) ※掃除道具点検の実施(年2回) ※水道・電気の使用量で、昨年度との比較を周知する。 ※エコ点検で◎の割合が6割以上	○年に2回の職員作業を計画実施し、安全安心で無駄のない環境づくりを行う。 ○委員会・分掌と連携し、環境に関する啓発をしていく。 ○電気、水の使用に関してエコにつながる具体的な取り組みを示すとともに、掲示板にTEAS報告を載せ、全校への意識づけを行ったり、職員への協力を呼びかけたりする。			

		年 度 当 初					
評価項目	部	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策		
「チームく らよう」の 推進	情報 教育部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本校教育についての理解啓発につながり、指導支援の連携を密にしていくための教育活動の発信</li> <li>○児童生徒の端末の活用促進</li> <li>○ICTを活用した効率的な業務改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○定期的に学校ホームページで教育活動について発信しより分かりやすいものとなってきた。</li> <li>○指導者用端末の整備の遅れ等のため児童生徒の1人1台端末による学習活動が十分に実施できていない。</li> <li>○Googleワークスペースの活用によりペーパーレス化が徐々に進んできた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育活動や学校教育の情報掲載等、学校ホームページの充実を図る。</li> <li>○単一学級児童生徒の1人1台端末を活用した授業が実施できるよう支援する。</li> <li>○教職員のICT研修の他、各分掌や学部、研究部等と連携し、学校全体としてあらゆる機会にICT活用を導入し、効率的な業務ができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○定期的に情報掲載できるよう各部門、学部での当番制にし、週1回以上の更新をする。</li> <li>○教材作成や情報モラルの教職員研修の実施や個別のフォローアップやともに1人1台端末の利用場面の日常化に取り組む。</li> <li>○各分掌業務の中でアンケートなどGoogleフォームで行ったり、ドライブやミートを利用するよう声掛けを行う。</li> </ul>		
	支援部 (校内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○関係機関との連携を含めた校内体制の明確化と、それに伴った連携強化の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒の実態の多種多様化、社会や家庭環境の変化等により、各関係機関との連携の仕方も多様化しており、よりスムーズに連携できるよう工夫をしていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒に関する各事案について、全職員が校内体制に沿って、関係機関とも役割分担しながら迅速に対応する。</li> <li>○各事案に関する校内体制について、新たに作成したり追加修正等を行ったりする。</li> <li>○定期的に関係機関と情報共有や共通理解を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年間を通じて、支援会議等を活用するとともに、関係機関への訪問も積極的に行う。</li> <li>○校内体制について年度初めに全職員に周知徹底するとともに、具体的な事例も挙げながらわかりやすく伝える。</li> <li>○職員会等で全職員に周知徹底するとともに、校内支援委員会を中心に対応についての検証を行う。</li> </ul>		
	支援部 (地域)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域校や関係機関のニーズの把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○センター的機能の活用について利用者側の成果や課題を知る機会が少なく、今後の体制に活用することが難しいケースがあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各種会議や体験等を活用し、地域校や関係機関からのニーズを把握する。</li> <li>○センター的機能活用の成果と課題、ニーズについて、電話、聞き取り、アンケートを実施してまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体験入学・体験学習、通級指導教室等の場面で、関係者にアプローチをする。</li> <li>○アンケートは文書に加え、Googleフォームによる回答ができるよう準備する。</li> </ul>		
	キャリア 教育部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者への情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者対象視察研修等を工夫しながら実施する方向で進めている。人権教育・交流や進路に関する保護者への情報提供の充実を図る必要がある。</li> <li>○キャリア教育参観日(11月)に向けた保護者への周知が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者アンケートで8割以上が「進路や人権教育・交流に関する情報発信ができています」と回答する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○定期的なキャリア教育だよりの発行(PTA人権教育研修会・公開学習・交流関係)・進路に関する学習等の内容掲載の発行(年6回以上)</li> <li>○卒後に向けた事業所情報提供(中部地区福祉セミナー動画提供)</li> <li>○小・中・高等部それぞれの段階に応じた進路に関する取組の説明(学部懇談・学年懇談等)</li> </ul>		